

銀座水族館 (七つの海の魚および水産切手)

—(10)—

東京支店 営業第一課 神原 勇

ダツ目サンマ科サンマ

学名 *Cololabis saira* 太平洋産

Scomberesox saurus 大西洋産

英名 saury

和名 サンマ・サイラ

太平洋産サンマは千島列島北部の占守島から四国・九州および朝鮮・北米沿岸にかけて分布するほか、ペルー沿岸水域の一部(概略南緯10度附近)でも知られている。大西洋産のものは地理的分布が極めて広く、北ノルウェー・アイスランド・ニューファウンドランド南沿岸と南方のカナリヤ群島間の北半球のものと、南大西洋のものはその北限がアセンションおよびセントヘレナ島から南方の喜望峰間のものが見られる。

サンマ類は典型的な外洋性表面生息魚で、生活の一時期でも沿岸水域に侵入する事はない。普通海表面すれすれのところにいるが、興奮したりすると水面を飛び廻り、その生態を容易に見る事が出来る。また南下して黒潮水塊の中で越冬するが、その時期には50cm以上も沈降する事もある。

光に対して正の反応を示すのでこの性質を利用して、集魚灯漁法により大量に漁獲される。すなわち漁場でのサンマ群集予想水域に船を微速で航走させ投光器で群を発見すると、その光でサンマが水中を跳躍し始めるので直ちに船を停止し、片舷の照明灯を点灯するとその光の下にサンマが集まるので、電灯の切換により反対舷の照明を点灯して魚を棒受網で漁獲する。この漁法を単にボーケと呼ぶ事もある。

西太平洋では黒潮水塊の中で越冬するが、大きい群をなさず小さい群に分散して産卵が行われる

春3~4月になると産卵を終へたサンマ群は北方へ索餌回遊を開始し、大体6月頃になると親潮に接近し、亜寒帯水を遊泳索餌しながら例年では千島列島北部附近に到達するが、海況によりその量は僅かではあるが、東カムチャッカ沿岸・ベーリング海のオリュートル湾に達する事もある。この後その餌料たるプランクトンの最も多い黒潮と親潮の潮境附近に入るが、親潮水塊が冷たくなり具索餌の終る9月になると、南方へ大回遊をはじめこの時期に大群集が形成され日本近海のサンマ棒受網漁船の最成期であると共に、サンマのシュンにも当る。潮境附近で良く食べ、良く遊んだ(?)サンマ群は10~11月に産卵の準備を完了し、その後四国と九州の東方水域の黒潮水塊で越冬産卵する。

食性は動物性プランクトンで、外洋性の甲殻類すなわちCopepoda・Euphausiidae等の他カタクチイワシ等の浮遊卵・幼生等である。サンマの成長度合は可成り早く6cmの稚魚は半年後には体長20cmに達する。

年齢(才)	1	2	3	4	5
体長(cm)	22	26	30	32	34
体重(g)	44	77	120	145	170

サンマは体長25cm以上の3~4才で性的成熟し5~6才で最大体約45cmに達する。

筆者が漁業調査船乗船中、南大西洋喜望峰北西南緯26度東経9度附近で漁獲したメバチマグロの胃袋より採集した、アフリカサンマの体長25cmの口吻の上側は45mmで下側は約2mm程度長い事が観察されたが、北太平洋産のものとは口吻の長さが大分異なり、そのウロコも粗い感じである。

ダツ目 サンマ科 サンマ

学名 : *Cololabis saira* : サンマ
 : *Scomberesox saurus* : アフリカサンマ
 英名 : saury
 和名 : サンマ・サイラ

日本産サンマは北太平洋、亜熱帯及温帯水域に分布し、冷水性魚。太平洋、北米沿岸、10~12月産卵、メバチマグロ、理年産流、勢力が弱まる頃、北米産種も多。食餌は多量性プランクトン(藻類、他)肉食魚類、卵、マグロ、カツキ、サメ、イルカ等、良く餌トモテツアイル。遠洋航行船、漁船、マグロ、カツキ類、餌料トツテ重要ル位置ヲ占ムル也。各種養殖魚、餌料トモテ用イラレル。

アフリカサンマは日本産モノニ比較シ口吻ガ長ク、体長25cm、尾ビレ45mmニ達ス。



アフリカサンマ 英領トリスダニヤ群島
-1960



アフリカサンマ スペイン群島
-1961



サンマ 朝鮮民主主義人民共和国
-1966